

CLUB NEWS

vol.
1255

2020-2021
MEETING

2020-2021年度国際ロータリーテーマ
ロータリーは機会の扉を開く

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック

山形中央ロータリークラブ

新たな試練を機会に、ロータリアンとして創造力と柔軟性で乗り越えよう!

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日12:30~13:30(但し第5週は18:30~) 会場 ホテルメトロポリタン山形

- | | | |
|-----------------|----------------|-------------------------|
| ■ 会長 小林 敏 郎 | ■ 職業奉仕 佐竹 純 一 | ■ 副 幹 事 佐藤 太 |
| ■ 会長エレクト 長橋 正 人 | ■ 社会奉仕 小泉 俊 哉 | ■ 会 計 深瀬 隆 志 |
| ■ 副 会 長 石山 徳 昭 | ■ 青少年奉仕 相川 博 昭 | ■ S A A 川合 勝 芳 |
| ■ 直前会長 伊藤 和 子 | ■ 国際奉仕 中川 清 美 | 国際ロータリー会長 ホルガー・クナウ(ドイツ) |
| ■ クラブ管理運営 長谷川 淳 | ■ 幹 事 玉ノ井 憲 史 | 第2800地区ガバナー 齋藤 榮助(米沢中央) |
| | | 第5ブロックガバナー補佐 北門 一忠(上山) |



ロータリーは機会の扉を開く

◆日時/2021.4.20 12:30 ◆例会場/ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング/国歌・奉仕の理想

会長挨拶



みなさん、こんにちは。先週、満開だった桜も先週末の強風ですっかり散ってしまいました。本日は、久しぶりにメトロポリタンさんでの例会です。今回も短縮例会では御座いますが、斎藤眞会員に1会員卓話をお願いしております。この後、どうかよろしく申し上げます。

まず先週14日山形市役所にて行われた非接触型体温測定器の贈呈式についてご報告させていただきます。玉ノ井幹事、社会奉仕大委員長の小泉さん、体温測定器の説明者として諏方さん、今回さまたご尽力を頂きました長谷川幸司さんの5名で、佐藤市長に測定器2台を寄贈し、感謝状を頂戴してきました。後ほど回覧致しますので、ご覧頂ければと思います。

さて、4月は「母子の健康月間」です。毎年、5歳未満で命を落とす子どもは、世界で推定590万人いると言われております。その原因は、栄養失調、適切な医療や衛生設備の欠如など、どれも予防が可能なものばかりです。現在、高水準な医療技術により日本の周産期(出産前後の期間)死亡率や妊産婦死亡率は極めて低く、世界的にもトップレベルで母子の健康が守られて

いるそうです。しかしせっかく母子共に健康に生まれてきても、その一方でマタニティハラスメントや産後うつ、ワンオペ育児、DV、児童虐待など問題があると、ロータリー友今月号の特集にありました。偶然、4月10日の朝日新聞に「7キロの重み、議員が妊婦体験」という記事が掲載されていました。妊娠にまつわる困難の一端を体感するため、男性議員5名に、重さ約7キロの「妊婦ジャケット」を着用して24時間過ごす試みを行ったそうです。体験した議員から「寄り添える社会をもっと追求しなくてはいけない。より良い社会づくりに生かしていく」などと、今後の政策立案に生かすことを誓ったと報じられておりました。

ロータリークラブは、生活習慣づくり、新生児や高齢者への医療支援などを通じて、健康な暮らしを応援していると言えます。しかし、単独のクラブだけでは、大きな貢献はなかなか出来ません。今回、山形市へ非接触型体温測定器を寄贈するといった小さな社会貢献活動を、今後も継続する事の大切さを考えたところでした。皆さんはどうお考えでしょうか。

今日も短縮例会にもかかわらず参加を頂きましたことに心より感謝を申し上げます。短い時間ですが、どうかよろしく申し上げます。



諏訪 均/本日当社金子常務の実父の逝去に対しましてたくさんのご厚意を賜り感謝申し上げます。明日参列して、本人にもお知らせして必ずお届けいたします。

小林敏郎/本日短縮例会にもかかわらずご参加を頂きましてありがとうございました。斎藤さん会員卓話ありがとうございました。

長橋正人/先日の久司プレオープンに際して、たくさんの方の皆様から懇篤なるお祝を頂戴し、本当に有難うございました。お蔭様で本日無事オープンさせて頂く事が出来ました。今後共宜しく願い申し上げます。

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	38名	—	20名	—
修正出席				
他クラブでメークアップされた会員				



会員卓話

会社の設立までの 経緯と設立してから現在まで

山形県水(株) 代表取締役 齋藤 眞 会員

私の父が米沢で魚市場を営んでいて、昭和40年山形に営業所を作りました。

当時の山形の魚市場は今のパレスグランデールのところで、その隣に土地を取得して市場の許可を得ました。

私は昭和47年山形の営業所に入りました。当時営業所職員は12名で、昭和50年漆山の中央卸売市場に移転の計画が進行していました。水産、青果の中央卸売市場はのころ各県庁所在地に整備されていて、山形でも開設予定でした。

中央卸売市場の組織は、全国から魚を集める荷受会社、荷受会社より仕入れる仲卸会社、そして買参人、買出人です。当時、魚の卸会社は12社あり、荷受会社希望7社、仲卸会社希望5社となり、荷受会社は2社だったので売上比率で1社と6社合併の1社となり、うちは6社で合併することになりました。私が山形に来たときは、株の比率はうちが25%と決まっています。筆頭株主でしたが、他2社と一緒にしないと過半数を得られない株数でした。

昭和50年4月、一応3社の与党体制でスタートしたものの、役員会では都度反目しあう状況でした。一年たった役員改選で反対派3人を推薦しないことで与党体制ができました。しかし間もなく与党の役員一人が長男を入社させてくれとの要望を拒否したことから反対派に回り、過半数を割ることから、第三者割当増資を行いました。反対派は裁判に打って出て、新株執行停止の仮処分が出ましたが、当方の弁護士は増資を進めるべきということで、増資を実行しました。会社の業績は、裁判とは別に順調に推移していましたが、6年後の昭和56年の6月の株主総会前もう一人の役員が反対派に回り過半数を失うことになり会社を辞めることになりました。同時に役職員を含めて12人が会社を辞めました。

昭和56年7月13日、荒楯町の前の市場の施設がそのままあったので、そこを賃貸して今の会社をスタートしました。市

場の形態はとらずに注文を取り配送する形でした。創業時は大変だったものの、県内で展開している食品スーパのほとんどと取引ができたことで形はできました。

昭和59年、仕入企業、同業者の経営理念の良いとこどりをして、経営理念、経営方針、行動基準、指針を作りました。

冷蔵庫が旧式だったこと、敷地が狭いこと等、この事業所では先が見えないことから、平成4年、現在の場所に移転しました。今、振り返れば、水産卸の業界の売上のピークは平成2年、その後は、魚離れ、流通経路の多様化から下降線をたどっています。バブルの頂点での投資、そしてB to Bの業態で施設が新しく広がったから売り上げが増えるわけではありません。その上競合は県内業者のみならず、仙台、東京、そしてスーパーの産地直取引が増えて、産地の業者との競合にもなり、移転する決断となった経営理念の最後の項“積極的にダイナミックに羽ばたこう”が歯がゆいものになりました。焦りの心でいろいろなチャレンジを試みるも逆に経費増になることが多く、新しいことは無心の心でやらなければむずかしいことも知りました。

時代は変わり地産地消のながれがグロースアップされたことで地方に密着したものが評価される時代になり、地方の卸売業が見直された分もありました。

昭和40年ごろに出た林周二教授の間屋無用論はいつも頭の中にありました。その上での経営方針の“卸売業の未来形の追求”が卸売業の本質を考える基になりました。卸売の機能を分社することで一つ一つの機能を深掘りすることになりました。スタートは大変でしたが少しずつ機能してきました。

12人でスタートした事業が39年たって140人の社員になったものの、私は12人の時からどう成長したのか考えると、昨年武田晃士さんが卓話で話された成長でなくて膨張ではないか、それ以来引っかかっています。



4月 会員誕生・創立企業日

誕生日

齋藤 眞 奥山 宏 長橋正人 新沼 悟 長谷川幸司

企業創立記念日

後藤完司 (山形建設)	川合勝芳 (株)曙印刷
板垣喜代志 (有)板垣商店	佐竹 猛 (有)三協電気工事
今野久仁正 (株)今野庭園	佐藤登美子 (有)佐藤税務会計事務所
佐藤 太 (株)佐藤電気商会	青柳紀子 安部法律事務所
中川清美 (有)美・中川工務店	柴田修英 柴田塗装店
	玉ノ井憲史 (株)エルアス